

東日本大震災から7年、いまだ届かぬ声がここに――

ドキュメンタリー映画 [ライフ]

# 生きてゆく

ただ会いたくて  
風吹く浜で、きょうも――

「忘れないで欲しいっていう気持ちは、ないんですよ。

風化するのしょうがないことだと思ってる。

でも忘れる前に、福島で起こったことは、まだ知られていない。

福島の本物の現実を、ただわかって貰えたらって思っています。」

上野敬幸さん(「Life」主人公／福島県南相馬市萱浜 在住)

出演／上野敬幸、上野貴保、上野倅吏生、木村紀夫 監督・撮影・編集／笠井千晶(Rain field Production)  
音楽／Steve Pottinger 題字／優和恵 イメージ画／小原風子 企画／想い願うプロジェクト



©2017 Rain field Production 制作／Rain field Production 2017年 115分 16:9 カラー 日本

ドキュメンタリー映画「Life」公式Facebookページ  
<https://www.facebook.com/life.fukushima.tsunami/>  
問い合わせ

Eメール [omoi.negau@gmail.com](mailto:omoi.negau@gmail.com) 電話 080-9117-7118

# これは、遺された 「一軒の家」をめぐる ある家族の “命”の物語。



2011年3月11日午後3時40分  
福島県沿岸に押し寄せた津波、  
そして原発事故—。  
見捨てられた命が、そこにはあった。

舞台は、福島第一原子力発電所の北22km。津波に見舞われた福島県南相馬市萱浜(かいほま)地区。消防団員の上野敬幸さんは両親と子ども2人を津波で流され、必死に捜索を続けていた。その最中、福島第一原発が爆発した。



「本当に助けて欲しいって  
思った時には、  
来なかったねえ、誰も—。」

捜索のため避難を拒んだ上野さん。その目に映ったのは、津波で一帯が根こそぎ流された故郷・萱浜に、唯一、遺った我が家だった。この「一軒の家」とともに、物語は紡がれていく—。



「天国のみんなに安心して欲しい。」—すべてが流された萱浜で再起を誓う上野さんは、一面に菜の花の種をまいた。一方、震災後に生まれた娘と妻の3人になった家族には、それぞれの想いが交錯する。そこにはいつも亡くなった4人の存在があった。

「生きているから出来ること。  
生きているからこそ、  
やらなきゃいけないことがある。」

やがて、第一原発が立地する大熊町で、同じく行方不明の我が子を探す木村紀夫さんと出会う。“復興”の波に抗い続けた上野さん。避け続けてきた現実を前に、ついに苦渋の決断を下す。そして5年9ヶ月後、訪れた奇跡の瞬間とは—。



## 映画「Life」からのメッセージ

撮影開始から5年半をかけて完成したこの映画は、津波と原発事故がもたらした福島の“知られざる悲しみ”を伝えます。ゆっくりと乗り越えるように歩み、前を向く上野さん一家。その姿は、私たちに問いかけます。家族とは何か—、そして、生きることは—。



監督 笠井千晶 かさいちあき



2018年5月13日(日) 鑑賞料無料 定員250名

場所/鈴鹿大学 国際文化ホール 三重県鈴鹿市郡山町663-222

《お問い合わせ》★ 鈴鹿大学入試広報キャリア課 Tel (059) 372-3939

★ NPO法人 笑の会 [info.ennokai@gmail.com](mailto:info.ennokai@gmail.com)

<https://npo-ennokai.webnode.jp/>



笑の会HP

上映後アフタートーク  
イベント開催!

笠井千晶監督をお招きして対談!

時間 9:30 開場 / 10:00 開演 / 12:00~12:30 トークイベント

当日専用駐車場有ります。また、近鉄千里駅から鈴鹿大学まで臨時バスを運行します。

この上映会を支援していただける「協賛企業、個人」を募集しています。詳しくは笑の会まで当日のキャンパも受け付けています。

主催:「Life 生きていく」in 鈴鹿大学実行委員会 協力:NPO法人 笑の会